

【評議員会議事録】

日 時：2006年9月20日(水)12:30～13:30

場 所：九州国際大学 2号館1階 会議室

出席者：家, 池内, 梅村, 大橋, 佐藤, 谷口, 観山, 山本, 井上, 岡村, 海部, 郷田, 柴田, 須藤, 中川, 渡部 以上16名

有効委任状提出者：安東, 小杉, 永田, 宮川 以上4名

欠席者：なし

他に理事会から祖父江理事長, 黒田副理事長, 花岡・杉山・北本・関井・百瀬理事及び東條事務長が出席した.

議事に先立ち議長及び署名人を選出した.

議 長：谷口義明

署名人：佐藤勝彦, 中川貴雄

報 告

1. 前回議事録の確認(資料1)

前回(2006年7月8日)の評議員会議事録が報告され, 原案通り承認された.
2. 開催中の年会について

百瀬理事より, 開催中の年会について講演645件・参加者約800名で順調に進行中である, 保育室の担当保育士が業者側不手際で遅れて来たというトラブルがあった, また18日の記者会見では7社出席, 公開講演会は140名程度の参加, との報告があった.
3. 講師派遣キャンペーン

花岡理事より講師派遣キャンペーンについて, 現在宣伝を行っており, 問い合わせは既に5件あり2件実施が決まっている, との報告がされた.
4. その他

花岡理事より, 内地留学奨学金選考委員会によって2007年度の受給者が東京学芸大学への留学を希望する有本淳一氏(塔南高校)に決定された旨の報告があった.

議 題

1. 100周年記念年会など

花岡理事より2008年春に予定されている100周年記念年会についてそろそろ具体的内容を議論したい, 特にあわせて開催される公開講演会について科研費による補助申請の関係でそろそろテーマ等を決定したく議論をお願いしたい, との提案があった. 記念講演会として大きな規模を想定すべきである, 時間枠も拡大できないか, いや多数の聴衆を集めるのは大変である, といった意見が出され, また内容についても, 天文学の広い範囲をカバーしてはどうか, 日本の天文学の発展や現在の高い水準を示すことができるようなものはどうか, といった議論があり, 開催地の担当者と教育理事を中心に早急に検討を進めることとなった.
2. 正会員の入会資格について(資料2)

花岡理事より, 入会案内を改定して正会員の対象を明確にし, あわせて実情に合っていない文言を修正したい, との提案がされ, 理事会での決定どおり改定することとなった.
3. 学会ロゴの作成(資料3)

北本理事より, 学会100周年を機会として学会ロゴを作成することとなったことについて, 2007秋の年会までに決定することを想定したスケジュールが提案された. 天文学会員から募集するとの原案であったが, 議論の結果会員に限らず広く募集し天文学会の存在自体をアピールする機会としてはどうか, ということとなった. また, 最優秀賞以外に優秀賞を設けることについて, 表彰数が多いことで多くの応募を喚起できるのであったほうがよい, 優秀賞も最終デザインの参考とできるのでは, その場合著作権に注意すべき, などの意見が出された. 審査についても, デザインを公表して会員による投票を行ってはどうかとの発言もあった.
4. 太陽系の惑星の定義について(資料4), 及び「太陽系天体の和名等に関する検討小委員会」について(資料6)

祖父江理事長より, 学術会議のもとに「検討小委員会」を組織するので天文学会からそのメンバーを推薦すること, この問題について特に対外的な面での対応をする学会内の組織として「検討小委員会」委員となる天文学会員をそのままメンバーとする学会内の懇談会を設け, その活動については学会として公式にバックアップをすること, が報告され, 承認された. また, 海部評議員より, 「検討小委員会」は20名程度で構成し, 太陽系天体の新しい分類の和名や従来分類名の意味を明確にするのが目的である, 1年以内に結論を出して任務を終える予定である, との報告があった. またこの問題に関連して, 次回年会で冥王星シンポジウムを行ってはどうか, との提案も出された.
5. 天文学の成果を社会一般に伝え広めるためのワシントン宣言(資料6)

天文学の成果を社会一般に広めるための提言をまとめた「ワシントン宣言」がIAUによって採択され, 天文学会もこれに対する支持を要請されていること, 理事会においても支持の方向となったこと, が報告され, 議論の結果支持を承認し, 今後具体的手続きに進むこととなった.
6. その他
 - (1)天文教育施設に対する指定管理者制度導入について

黒田副理事長より, 地方自治体の公共施設を民間に委託し運営する指定管理者制度の導入が進んでいるが, この制度下では利潤追求が重視され専門性がおろそかになる・長期的展望が難しいといった点で博物館施設にはふさわしいとはいえない制度である, このため天文教育普及研究会では博物館施設を指定からはずすよう声明を出しており, 天文学会など関連団体の賛同も得てさまざまな働きかけをおこなっていきたい, との提案があることについて説明があった. 既に公共天文施設の25%が移行しているということであるがそこで具体的にどういう問題がおきているのか, 天文に限らず科学全般にかかわるのもっと大きな動きとなるよう多方面に働きかけてはどうか, などの意見が出された. 学会としても今後黒田副理事長を中心に具体的対応を検討していくこととなった.
 - (2)ポストク支援について

須藤評議員より, 物理学会でのポストクの就職を支援する事業について紹介がされた. ポストクが就職できるよう支援を行う場合はまずポストクの現状が正しく把握されている必要があり, たとえば天文分野においてどのような状況なのかを示すデータが必要である, 東大などでは独自にポストクに対する就職などコンサルティングを行っているが, もっと企業と連携して拡大してはどうか, との発言があった.
 - (3)次回以降の日程

次回は2007年1月27日(土)に開催, 次々回は春季年会中に開催する.

2006年10月10日

議 長 谷口義明

署名人 佐藤勝彦

署名人 中川貴雄